

# 都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：令和6年第IV四半期（10～12月）

**設備投資：わずかに低下**    **資金繰り：ほぼ横ばいで推移**  
**採算状況：全業種で改善**    **雇用人員：わずかに不足感が強まる**

来期（令和7年1～3月）の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は全体では19.5%となり、やや上昇する見通しとなった。

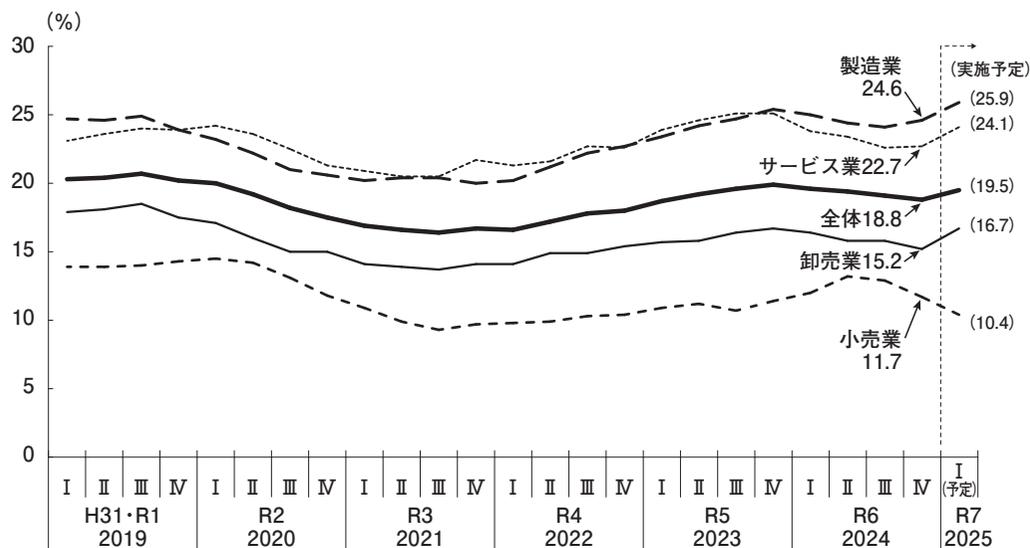
業種別にみると、設備投資の「実施予定」割合は当期と比べて卸売業16.7%、サービス業24.1%、製造業25.9%はそれぞれ大幅な上昇が見込まれる。一方、小売業10.4%は大幅に低下する見通しとなった。

## ■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均でみると、当期（令和6年10～12月）に設備投資を「実施した」割合は全体では18.8%となり、前期（令和6年7～9月）の19.1%からわずかに低下した。

業種別にみると、設備投資を「実施した」割合は小売業11.7%（前期12.9%）が大幅に低下、卸売業15.2%（同15.8%）はやや低下した。一方、製造業24.6%（同24.1%）はやや上昇した。

図表1 設備投資の実施割合の推移 — 後方4四半期移動平均 —

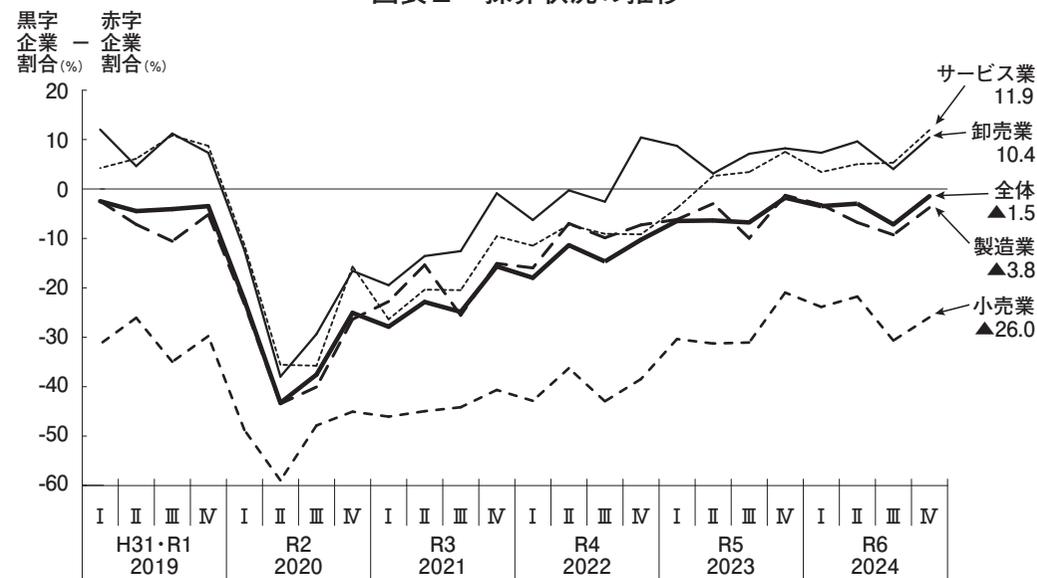


## ■採算状況■

当期の採算状況を「黒字」とした企業割合－「赤字」とした企業割合でみると、全体では▲1.5（前期▲7.2）となり、5.7ポイント増加し改善した。

業種別にみると、サービス業11.9（同5.3）は6.6ポイント増加、卸売業10.4（同4.0）は6.4ポイント増加とともに大幅に改善、製造業▲3.8（同▲9.3）は5.5ポイント増加、小売業▲26.0（同▲30.7）は4.7ポイント増加とともに改善した。

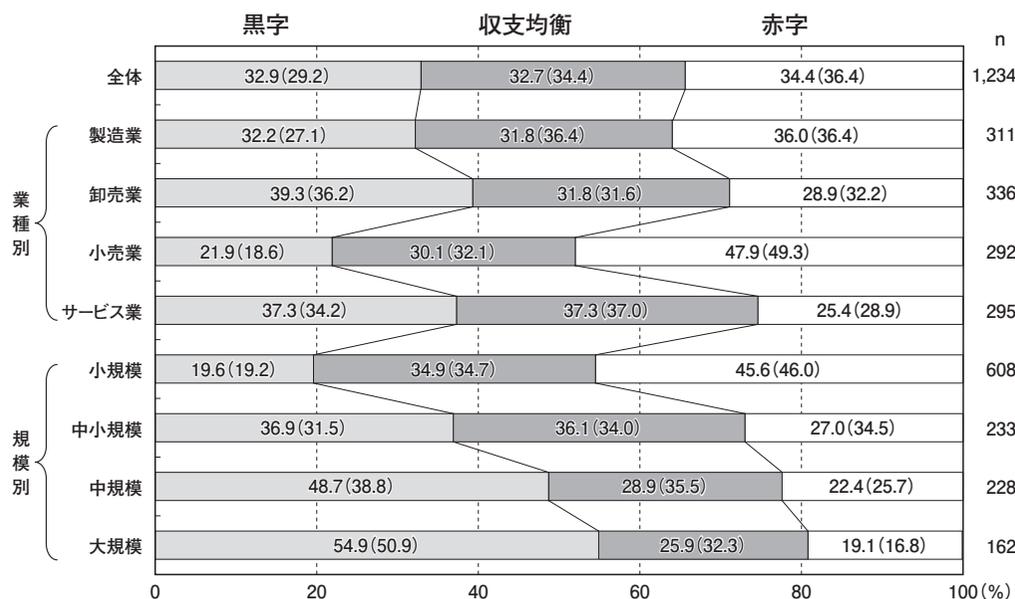
図表2 採算状況の推移



注) 来期「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

規模別にみると、規模が大きくなるほど「黒字」が高くなり、大規模は 54.9%（同 50.9%）を占めた。前期と比べて全ての規模で黒字の割合が増加した。

図表3 採算状況（業種別・規模別）



注) 規模別は規模不明を除く。( )内は前期(令和6年7~9月)の数値。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

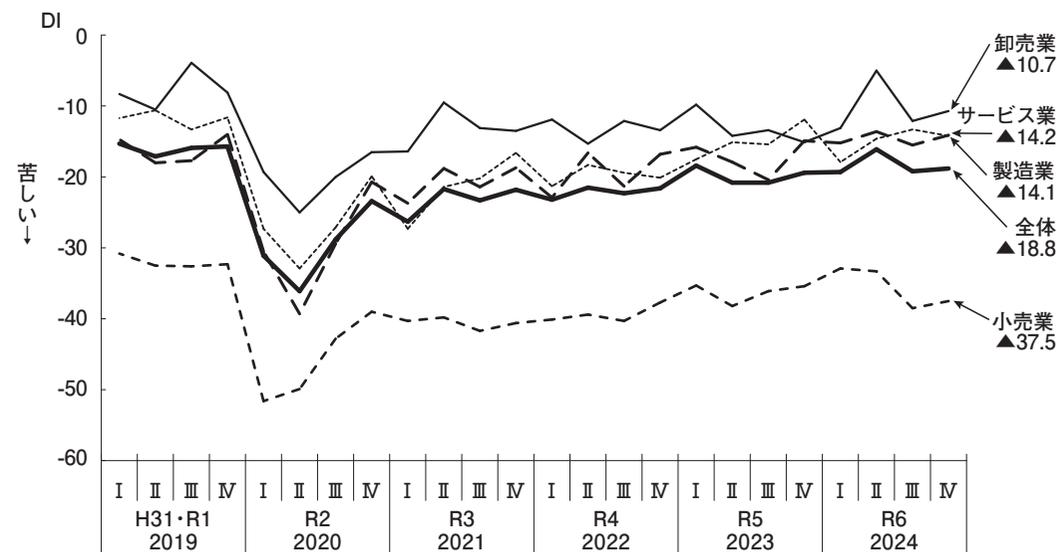
## 資金繰り

当期の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」-「苦しい」）でみると、全体では▲18.8（前期▲19.2）となり、ほぼ横ばいで推移した。

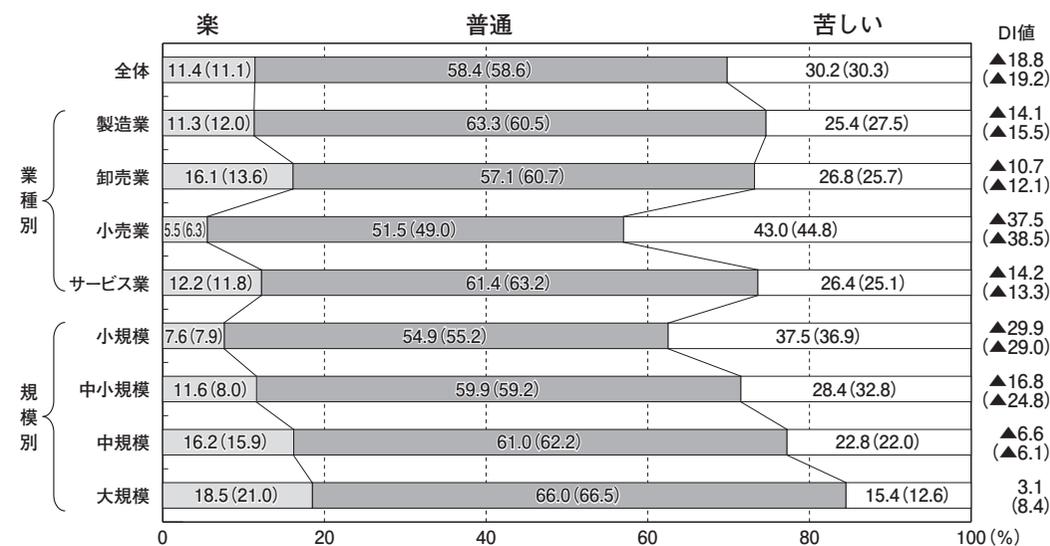
業種別にDI値をみると、製造業▲14.1（同▲15.5）と卸売業▲10.7（同▲12.1）はともに1.4ポイント増加、小売業▲37.5（同▲38.5）は1.0ポイント増加しそれぞれやや改善した。一方、サービス業▲14.2（同▲13.3）は0.9ポイント減少しわずかに悪化した。

規模別にDI値をみると、中小規模▲16.8（同▲24.8）は8.0ポイント増加し大幅に改善した。中規模▲6.6（同▲6.1）はほぼ横ばいで推移した。小規模▲29.9（同▲29.0）は0.9ポイント減少しわずかに悪化、大規模3.1（同8.4）は5.3ポイント減少し大幅に悪化した。

図表4 資金繰りDIの推移



図表5 資金繰り状況（業種別・規模別）



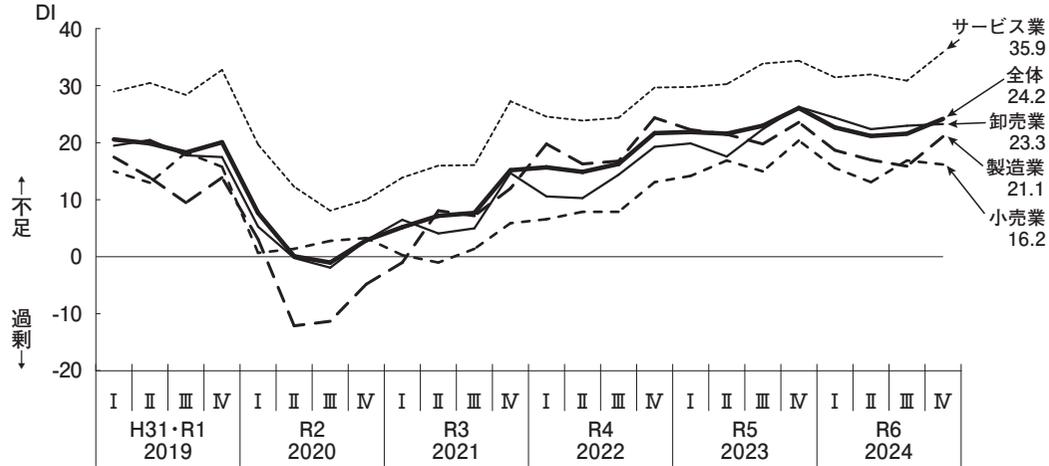
注) 規模別は規模不明を除く。( )内は前期(令和6年7~9月)の数値。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

## ■雇用人員■

当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」－「過剰」）で見ると、全体では 24.2（前期 21.6）となり、わずかに不足感が強まった。

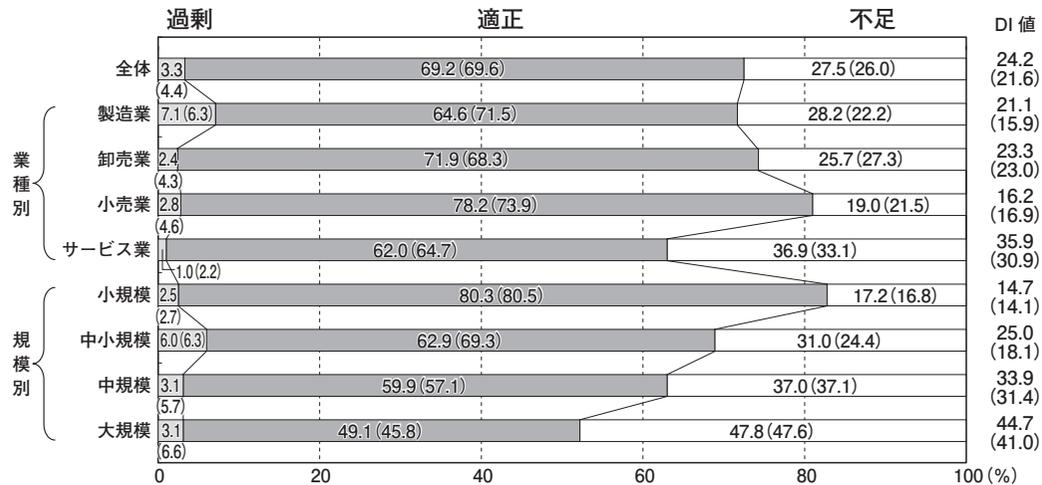
業種別にDI値をみると、製造業 21.1（同15.9）は 5.2ポイント増加、サービス業 35.9（同 30.9）は 5.0ポイント増加しともに大幅に上昇した。

図表6 雇用人員DIの推移



規模別にDI値をみると、規模が大きくなるほどDI値が高くなり、大規模は 44.7（同 41.0）となった。

図表7 雇用人員の状況（業種別・規模別）



注) 規模別は規模不明を除く。( )内は前期(令和6年7~9月)の数値。  
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。